

令和8年度 第1回豊田市特別支援教育連携協議会 会議録

協 議 会 名	第1回豊田市特別支援教育連携協議会
開 催 期 日	令和8年5月22日（金）
開 催 時 間	午前9時30分から午前11時15分
開 催 場 所	豊田市青少年相談センター
出 席 者	20名 （内訳） ・会長（医療関係）・・・・・・・・・・1名 ・副会長（学識経験・医療関係・学校関係）・・3名 ・保護者代表・・・・・・・・・・2名 ・学校関係・・・・・・・・・・5名 ・福祉関係・・・・・・・・・・6名 ・労働関係・・・・・・・・・・1名 ・保育関係・・・・・・・・・・2名

<会議録（要旨）>

1 開会行事

（1）教育委員会あいさつ

- ・豊田市では、「子ども起点」「つながり合う」という視点に注力する「第9次豊田市総合計画」の策定を受けて、本年度より、本市の教育行政の方向性を示す第5次豊田市教育行政計画が施行された。
- ・第5次豊田市教育行政計画の特別支援教育に関する個別計画と位置付けた豊田市特別支援教育推進計画もスタートした。
- ・豊田市の特別支援教育が確実に前進するよう、ご協力いただきたい。

（2）会長あいさつ

- ・22名の会員のうち12名が新しい方となった。要綱第1条にある通り、本協議会は豊田市の特別支援教育の要となる。
- ・現場の先生方と親御さんを支えて日本一の特別支援教育都市を目指していきたい。
- ・重点取組と活動計画は、意欲的な案だと感じる対策があがっている。
- ・豊田市特別支援教育推進計画を作りっぱなしにしない。本会は、推進計画を具体的に実現できるようにする役割も担っているので、課題を解決するための進捗管理にも力を注いでいけたらよい。

2 協議事項

（1）令和8年度の重点取組の項目について

① 重点1 多様な学びの場における支援・指導の充実

- ・適切な就学相談を行うために、本年度の就学相談会の対象を年長と小学6年生として開催する。
- ・ブロックサポート体制において、特別支援学校や企業等と連携し、教員・保護者向けの研修を工夫する。
- ・特別支援教育アドバイザーによる巡回相談の際、校内支援体制について管理職に

対して助言する。

- ・昨年度作成した「副次的な籍制度ガイドライン」や特別支援学校教諭が作成した障がい種別の研修動画（肢体）を活用し、交流及び共同学習のさらなる充実を図る。
- ・昨年度作成した、「福祉制度についてのパンフレット」をもとに、中学校では就労や年金等卒業後について、小学校では手帳や放課後ディサービス等についてなど、目の前の子どもたちの生活や将来の姿をイメージして、支援・指導ができるようにしたり、保護者に話をしたりできるように、周知、活用を促す。

② 重点２ 教員の専門性、授業力・指導力の向上

- ・「特別支援教育ハンドブック」に豊田ひまわり特別支援学校と学習障がいに関する教育的対応について追記する。
- ・本年度も、市独自の特別支援学校教諭免許法認定講習を実施する。また、免許取得者や受講者が学んだことを校内 OJT や学校の体制づくりに生かしたかの調査を行う。

③ 重点３ 教育諸条件の整備

- ・本年度より、パルクとよたに保健師が１名配置され、小・中学校や豊田特別支援学校の医療的ケアの支援体制の充実や登校支援等の課題に取り組む。

④ 重点４ 中学校卒業後の生活へのスムーズな移行

- ・特別支援教育推進委員会主催で、８月に企業の方等を招いて、特別支援教育コーディネーターの全体研修を行う。

(２) 令和８年度 活動計画

３ 情報提供

- ・愛知県特別支援教育体制推進事業の概要
- ・豊田市の小・中・特別支援学校の状況
全学級数に対する特別支援学級の割合が、小中の全体で 20.45%となっており、特別支援教育の重要性がわかる。
- ・令和７年度豊田市就学支援委員会の結果より
- ・令和９年度開校豊田ひまわり特別支援学校について
- ・特別支援教育推進計画、副次的な籍制度ガイドライン、福祉制度についてのパンフレット、特別支援教育ハンドブックについて

４ 意見交換

５ 終わりのあいさつ（副会長）

- ・豊田市は他市よりも一歩進んだ教育が進められている。周辺の市からも言われて

いる。

- ・教員の専門性、高校等へのつながりについてなど幅広い話題が出た。今後も注視していきたい。
- ・中学校の研究発表校に関わっており、そこでは特別支援教育のノウハウが活かされており、共生社会へのベースづくりがテーマとなっている。構造化、視覚支援の効果などが感じられる研究となっているので、研究成果を発信して、豊田市全体の意識が高くなることを願っている。